

新入会員紹介

岡野響

水泳部のエース兼部長。入部当初から速かった彼は十六校でも自由形種目二冠を成し遂げるなど大活躍し、九段水泳部に大きく貢献してくれた。また彼は速いだけでなく部活のことを良く考えるしっかり者で、ときどき筆者と彼とでどっちが先輩か分からなくなるときがあった(笑)

そして彼は練習でも常に真剣に取り組み、ダッシュの練習のときは筆者と毎回本気の勝負をしたのは良い思い出。

そんな速さと内面性を兼ね備えた彼は九段水泳部になくはならない存在であった。大学に入ってもその才能活かし活躍していくことだろう。

坂口昌也

努力の二文字が似合う男ナンバーワン。筋トレしすぎて九段水泳部の誇るボディビルダーと言っても過言ではない。

そんなむきむきな彼は短距離ではなく長距離スイマーで、練習のときはロングのメニューをこなすことが多かった。

十六校でも長距離種目で得点をもぎ取ってくれた。さらにその体格とは相反して性格は優しく先輩にも後輩にも親し

まれる水泳部の愛されキャラだった。大学に入ってからさらに筋トレを続けて頑張っていてほしい。

木村麻優子

一言で表すと真面目。とにかく真面目な彼女は水泳も勉強も真摯に取り組み、練習にはいつも全力な彼女がいた。また、練習がオフの日に東京体育館のプールでばったり会ったときは彼女の本気さが伝わり、自分も頑張らなくてはと思わされた。さらに彼女は

後輩の面倒見が良く、やんちゃな中学生をまとめてくれることもあった。大学に入ってから九段に足を運び部活を支えていて欲しい。

泉恵里

ふんわりとした雰囲気な泉はよく笑っていた印象が強い。

先輩とも後輩とも仲の良い彼女は、部活全体の雰囲気明るくしてくれる存在だった。そんな彼女もレースになると顔付きが変わり、高校に入ってからもどんどんタイムを伸ばし続けていった。彼女の本気の泳ぎは、部員にも良い刺激を与えていたことだろう。大学に入ってからどんどん成長する彼女に期待したい。

活動報告

水泳部コーチより①

コーチ 水野 敬太

一游会の皆さま、日頃からご支援、ご声援ありがとうございます。現在学生コーチをしている87回生の水野敬太です。競技者として積んできた自らの経験を活用しながら、後輩一人一人に技術面での指導をおこなっています。

今年度は山口先生を中心に、高橋先生と加戸先生、飯塚先生の4名の顧問の先生方の指導のもと、活動を行っています。また、今年度も木原稟太郎コーチを外部指導員にお招きしています。

これまで顧問でお世話になった先生方が異動された学校との合同練習や交流も定期的に実施され、切磋琢磨しています。

現在、水泳部の活動は、日曜日を除く週6日を基本に行っています。部員の泳力別にAコースからEコースに分かれて練習を行っています。昨年は中止になってしまった合宿ですが、今年は例年通り、春休み中に静岡県の河津で実施することができました。合宿での共同生活でチームとして

の一体感が強くなり、二部練習や陸上トレーニングで各部員の泳力が強化されたことと思います。

今年度は高校男子1名がインターハイに個人種目での出場権を得ました。

水泳部としては十六校を目標とし、各々が練習に取り組み、一丸となって頑張っています。一方で、普段の練習に対する考え方は、バラバラのように感じられます。それは、部活の開始時間の集まりの悪さに表れていると思います。開始時間には、活動できる状態で集まることは意識さえすれば直ぐに改善できるので、各部員が当たり前のことを当たり前にできるように取り組んでほしいと思います。しかし、水泳面では部員同士が互いにアドバイスし合い、先輩から後輩への技術的な指導も行われたり、上級生も下級生に刺激を受けたりするなど、お互いに士気を高め合える良い雰囲気での練習ができていると思います。

これからも続けていけると良いと考えます。これからも部員のサポートができるよう競技者として練習を積んで経験を還元していきたいと考えています。

一游会の皆様。今後ともご支援、ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2017年7月31日

水泳部コーチより②

外部指導員 木原稟太郎

一游会の皆様、まずは嬉しいご報告からさせていただきます。先の関東高校で6年男子の長嶋透夢が50 m自由形でインターハイ標準記録を突破し、インターハイ出場を決めました。OBの方からお聞きしたところ、11年ぶりの出場、男子としては34年ぶり戦後2人目とのことで、このような快挙に立ち合えたこと、また九段初の外部コーチとして招聘いただき、期待と責任を感じながら3年目で成果を出せたこと嬉しく思います。

このような成果が出せたのも、ご紹介いただいた吉見先生はじめ、承認いただき、また日頃からご支援いただいたいる一游会の皆様、歴代の顧問の先生方すべてのお陰だと思っています。この場を借りてお礼申し上げます。有難うございます。

今年度から強化部として活動時間は少し確保できましたが、朝練はもちろんのこと、活動日、下校時間の制約も厳しく練習時間も最大で週5日、2時間弱という環境の中、やってきました。昨年も書きましたが、スイミングスクールで

練習している選手、または強豪校に比べて練習時間、量とも半分ほどです。

学業優先、限られた時間の部活動のみで全国大会出場を叶えたことは大変、価値があることです。練習時間が少なくとも、学業優先でも全国大会に出られるということを証明、実現できたことを長嶋本人も誇りにしてもらいたいですし、今いる部員にも勇気と希望を与えられたと思います。

今の九段生を見てみると、学業、学校内の活動、部活と目まぐるしく毎日を過ごしています。そんな中、養われているのは集中力とスイッチの切り替えです。勉強の時、学校活動の時、練習の時、試合の時と自然とスイッチの切り替えができ、そして一つ一つに取り組む集中力を発揮できるのが、今の九段生の持ち味になっています。その特徴を生かして、練習を作成し、強化プランを考えますし、部員たちにも集中とスイッチを常に言い聞かせています。そして九段でもできる、九段生ならできると確信しています。

最初にインターハイ出場のご報告をしましたが、都高校においても長嶋が50 m自由形5位でジュニアオリンピック標準記録突破。男子400 mリレーは2年連続の10位(上位10校で公立校は九段のみ)と大健闘してくれました。中学生においては、男子女子ともに数年後のインターハイを狙える部員がおり、その目標に向かって日々励んでいます。ま

た十六校では、一昨年から2年連続で駒場を抑えて優勝している男子200mリレーの3連覇を始め、一人ずつが少しでも自己ベスト、上位に食い込めることを目指しています。皆様方が積み上げてきた九段のいい伝統を引き継ぎ、また九段の強みでもある集中力に磨きをかけて、さらなる上昇、人間力の向上をはかれるよう、今後も指導に当たりたいと思います。

今でも大変手厚いサポートをいただいています。今後の九段水泳部の向上を考えますと、皆様のご支援は必要不可欠です。頑張っている後輩のため、引き続き、厚いご支援とご協力をお願い致します。

2017年7月31日



現役部長より

部長 6年 安 孝介

私は、少なくとも一年前まで、胸を張って部活に意欲的に取り組んでいると言えない部員でした。決して泳ぐのも速くありません。さらには、一年前の冬に腰を怪我してしまい、満足に泳げる状態ではありませんでした。そんな私が部長をやるといっても後輩、同級生、先輩方、そして何より自分自身が「分かりました」と事態を飲み込むのが不可能であることは自明です。

加えて、副部長に指名された部員は病気にかかってしまい、数か月間泳ぐことができないと言われており、世代交代直後は、部長副部長が陸にいることは前代未聞でした。そんなこんなで当初はやっていけるか不安でしたし、周りからの目線も痛く、部活をやめようかと本気で悩んだ時期もありました。

しかし、OB・OGの方がアドバイスして下さったり、後輩が支えてくれたりしたおかげで、なんとか一年自分なりに部活を引っ張ってることができました。ついてきてくれた現役のみんなや、支えてくださったOB・OGの

方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。
いました。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、今年から学校や部活の体制ががらりと変わりました。それに伴い、顧問の山口先生が部活にいられる時間も短くなり、最近では部員がメニューを作成し、自主的に取り組むことが多くなっています。顧問がいつもついてくださったり、コーチやOB・OGの方々が来てくださったりする今の環境を当たり前と思わず、部員一人一人が自主的に部活に取り組んでいってくださることを期待しています。

現在水泳部は、高校生19名、中学生19名の計38名で活動しています。十六校はもちろんのこと自己記録の更新、関東大会出場、インターハイ出場など各々が自分の目標に対して日々精進しております。これらの目標を掲げられるのも素晴らしい環境を提供してくださっている一游会の皆さまや先生方、大会で役員をやってくださいているOB・OGの方々、そして部員を支えてくださっている保護者の方々のおかげです。感謝の心を忘れずにこれからも部員一同頑張ってくださいますので、今後ともご支援、ご声援のほどどうかよろしくお願いいたします。

2017年7月31日



平成29年度 至大荘亭長より

宇田川まり

平成29年度観海亭の亭長を務めました、九段中等4年生(卒業4年目)陸上競技部OGの宇田川まりと申します。今年度の至大荘も無事5日間を終えることができました。一游会の皆さまにはこの場を借りてご挨拶させていただきます。

す。誠にありがとうございます。うございました。

この至大荘行事は今年度で90周年という節目の年を迎えます。本番期間は天気恵まれず、水温・気温ともに低い日が続き、大遠泳でも寒さで舟にあがる生徒が多くいました。それでも生徒はみんな泳ぎきりたい

と全員が一体となって取り組んでいました。11回生の至大荘を成功させたいという生徒の想いと一体感を強く感じた年だったと感じております。また、現役助手も大きな達成感を得て終えることができました。

今年度の至大荘を終えて強く感じていることは、90年という歴史の重みです。今年は新卒が多く参加をしてくれた一方で、この行事をつなげていくことの難しさも痛感いたしました。助手の達成感、生徒の成長、安全を守るだけの泳力、この全てを維持することは容易ではなく、90年もつなげてきてくださった先輩方、とその努力に改めて気づかされました。今も支え続けてくださる皆さまの存在がなければ、今年度の成功ありません。改めて感謝申し上げます。

九段中等に観海亭亭長が引き継がれて今年で3回目になります。現役助手の数や一体感も増し、少しずつ、これからはつながる道が見えてきているのではないかと感じています。助手の「生徒のために」という想いは今も強く続いているということを実感することができました。100年目に向けて、現役助手、OB・OGの方々、さらには先生方とも一致団結して尽力いたします。今後ともご支援、ご協力いただけますと幸いです。何卒よろしく願います。

2017年8月11日

